

鹿児島大学での 「市長と語る会」発言に対する対応方針

〔開催概要〕

日時: 令和5年7月13日(木) 10:50～12:00

場所: 鹿児島大学

令和5年10月

鹿児島市 市民協働課

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和5年7月13日（木）10：50～12：00
場所：鹿児島大学

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
1	鹿児島大学 学生	<p>タイトル：Uターン就職増加のために</p> <p>Uターン就職増加のため、気軽に鹿児島の企業の良さを知ってもらい、学生と企業のつながりを広げる1Day職業体験を実施する。</p> <p>また、1Day職業体験参加者に対して体験した企業に就職活動する際の交通費を補助する鹿児島パスポートを発行する。</p> <p>1Day職業体験サイトについては、市が運営し、様々な業種の県内企業を検索しやすいよう、売上・所在地・従業員数などのカテゴリー別のリストを作成し、県内企業の周知に貢献するサイトを作成する。</p>	<p>今回のテーマ「Uターン就職」に着目した理由を教えてください。</p> <p>（⇒Uターン就職に着目した理由は、自身が県外から来た学生であることと、県内の大学に進学する人より、県外の大学に進学する人が多いとの情報を知る機会があったため（学生回答））</p> <p>鹿児島県は県外への進学、就職が全国でも1、2を争うほど高く、一度県外にでた若者をどう呼び戻すかが重要で、非常に良いテーマである。</p> <p>人手不足の今、企業は人材確保が大きな課題である。Uターン就職を増やすため、どういった点が課題になると考えたか教えてください。</p> <p>（⇒金銭面が課題になる。就職活動中はアルバイトも減り、その中で帰省する費用の捻出が大変だった話を聞いたため、鹿児島パスポートで費用を負担する提案を考えた。（学生回答））</p> <p>企業側から考えたとき、直接雇用は採用コストの削減につながる。採用に係る経費はブース出展料や転職支援サービスの費用など案外大きい。そういった点を考慮すると企業のメリットも大きく利用しやすい良いサービスと思った。</p>	産業局	<p>県外の学生の就職活動やインターンシップにかかる宿泊費や交通費を助成する事業として鹿児島県の「ふるさと鹿児島Uターン就活応援事業」があるが、これは学生を受け入れた事業者が補助対象であり、学生を直接支援するという点で本提案の独自性があると考え。今後、類似の取組を行っている他都市の状況等も踏まえ、Uターン就職につながる施策を調査研究してまいりたい。</p>
2	鹿児島大学 学生	<p>タイトル：Out of KidZania in かがしま</p> <p>Uターン就職が少ない要因として、学生が鹿児島の企業を知らないことが要因であることから、子供向けワークショップ「Out of KidZania in かがしま」を鹿児島市で開催し、幼いうちから鹿児島の企業認知度の向上や地元愛の醸成を図り、Uターン就職増加を目指す。</p>	<p>キッズニアは福岡など大都市でないとい利益が出ない。薩摩川内で実施したときにキッズニアにいくらの費用がかかっているか教えてください。</p> <p>（⇒わからなかった。（学生回答））</p> <p>自治体の予算には予算説明書というものがあり、そちらを確認すると大まかな費用がわかる。事業を実施するにあたって、予算総額や誰が費用を負担するかを意識してほしい。</p> <p>キッズニアの利用者が少ない場合は売上より費用が多くなる。その差額をだれが負担するかが問題になる。その点はどのように考えているか教えてください。</p> <p>（⇒市の負担と、企業からの協賛金を考えている。（学生回答））</p> <p>企業は広報効果があるため、協賛金を出してもらえる可能性が高い。それでも賄えない部分を公費で補填するということを考えていただけたらと思う。</p>	産業局	<p>鹿児島市では、鹿児島の若者に地元企業の魅力を発信する事業として「みらいワーク“かがしま”」を開催している。みらいワークでは様々な仕事を体験できるブースを企業等が出展しており、小学生等の児童も数多く参加し楽しんでる。子どものうちから地元の企業認知度を向上するため、みらいワークにより多くの児童・生徒に来てもらえるよう周知広報、内容のブラッシュアップを共催の国・県と検討していきたい。</p>

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和5年7月13日（木）10：50～12：00

場所：鹿児島大学

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
3	鹿児島大学 学生	<p>タイトル：地元活性化のための学生返済支援～若者溢れるまちづくり～</p> <p>大学生の県内就職率が低い要因として、他都市と鹿児島県内の初任給の格差がある。鹿児島市独自の奨学金返済補助制度を導入することで、初任給の格差を是正し、県内就職率の向上を目指す。 また、補助制度の財源として、ふるさと納税を活用し、現在の特産物の返礼に加えて、鹿児島までの交通券（旅費相当分）を配付し、鹿児島の認知度を高めるとともに受入額増額を目指す。</p>	<p>鹿児島市はふるさと納税がまだまだ弱い状況である。積極的に活用するため、今年度からふるさと納税専門組織を作った。民間のマーケティング専門家の協力のうえ、本気で寄付額を増やしていく取り組みを始めたところである。</p> <p>まずは、現在の年間6億を12億。その後、20億、50億と増額を目指していきたい。</p> <p>奨学金について、私自身も2つの奨学金を借りていたため、奨学金返済の仕組みや大変さは実感している。50人の人数制限は県を参考にしていると思うが、どの程度、県の枠が埋まっているか教えてほしい。 （⇒調べていない。利用促進策として、大学進学前の高校生に奨学金の案内の際に、併せて本制度の案内をすることを考えている。（学生回答））</p> <p>この制度がスタートした場合、50人の枠では足りないと思った。市内の大学生を2,000人程度と想定した場合、その中での奨学金利用者数を考えると50人の枠は少ない。</p> <p>県の状況を参考に、枠が足りていないのであれば、必要な人に行き届いていないとわかる。逆に枠が余っているのであれば、周知に課題がある。補助制度には枠があり、利用率などは既存の制度を参考にしていただければと思う。</p>	企画財政局 産業局	<p>市長回答のとおり</p> <p>令和4年度の鹿児島市内の大学に通う大学生は一学年約3,200人おり、仮にそのうちの2割が鹿児島市内の事業所に就職し、奨学金制度の利用者だと仮定すると640人となる。奨学金返済に関する助成については、推定ではあるものの、対象者数が多く、相当な財源が必要となることが見込まれる。 既存の県内の奨学金制度の状況を把握するとともに、他都市の動向にも注視してまいりたい。</p>
4	鹿児島大学 学生	<p>タイトル：旧吉田小 × 食育</p> <p>旧吉田小を調理可能な施設に改装し、地元の農家の協力のもと吉田地域の野菜や果物を親子で収穫、調理し、楽しく食べる「食育」をテーマとしたイベントを開催し、旧吉田小を食育拠点施設として活用することで、こどもと地域住民の交流の機会が生まれとともに、イベント参加者による関係人口の増加が見込まれる。</p>	<p>まず、廃校活用に着目していただいたことは、ありがたいと思った。桜島では8つの小学校、中学校を統合し、新たに一つの義務教育学校にする話が進んでおり、今後、廃校の利活用は非常に重要なテーマになってくる。</p> <p>改修工事等については、旧吉田小の築年数や耐震を検討することが重要で、既存建物を活用する場合は、そういった点を一つの基準にして考えていただきたい。</p> <p>食育の取組については、吉田地域の誰に喜んでほしいかが重要である。いろんな政策を描くうえで、細かいことも大事だが、誰に喜んで欲しいのかが、最も大切である。新しいことを始める場合、様々な意見をいただくが、「誰に喜んで欲しい」「誰を笑顔にしたい」といった熱意があれば、その熱意が伝わり乗り越えていける。</p> <p>この提案で、吉田地域の活力や賑わいにつながればいいなと思うので、是非、みなさんの熱意をいろいろな人に話してもらえればありがたい。</p>	市民局 教育委員会 健康福祉局	市長回答のとおり

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和5年7月13日（木）10：50～12：00
場所：鹿児島大学

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
5	鹿児島大学 学生	<p>タイトル：吉田の魅力を味わう弁当作り</p> <p>吉田の特産品の消費向上を目的として、吉田の食材を使用した「よしだの魅力丸かじりバーガー（飯）」や売れ残り防止のためネット予約で受け付けたカスタム弁当をワゴン車や吉田文化体育センターで販売するとともに、ハンバーガーなどの新メニューをパッケージ化するために、吉田にゆかりのあるロゴを作成する。</p>	<p>吉田はいろんな農産物を作っており、単に野菜を売るだけではなく、加工して販売する提案は非常に重要なことだと考える。</p> <p>野菜単品で売るよりも、お弁当やバーガーなどの加工品の方が利益率が高く、今回の提案のような6次産業化が稼げる農業には有効な方法であると考えている。</p> <p>このような取組は、積極的に実験を繰り返してもらいたい。また、吉田だけでなく旧5町で対抗しても面白いと思った。</p> <p>将来みなさんが農産物を生かした特産品を作りたいと思ったときは、都市農業センターに加工機器を導入しているので、まずはそこを利用し、加工品の実験をしてもらえたらありがたい。</p>	市民局 産業局	<p>市長回答のとおり</p> <p>「地域の魅力・活力共創事業」として、合併した5つの地域それぞれの個性を生かした活性化に向け、令和4年度に策定したプランに基づき、5年度から事業を実施している。今後、各地域の事業間の連携や好事例の他地域への発信など、より効果的な事業の実施に努めていきたい。</p>
6	鹿児島大学 学生	<p>鹿児島の文化資本についての見解</p> <p>地方の文化資本金格差のニュースを見て、鹿児島に若者が来ない理由の一つに、スポーツや音楽など芸術の供給が少ないことが理由ではないかと思った。鹿児島市の対策として、そういった誘致や、大きなアリーナを作るといった意見や計画はないか。</p>	<p>若者を鹿児島市に住ませるためには、文化を含めたエンターテインメントが必要不可欠である。地方都市である鹿児島市ができる、最も有効なエンターテインメントはスポーツである。具体的にはユナイテッドとレブナイズで、年間を通して、5千人から1万人が集まる場をコンスタントにつくることができる。そういった点に着目して、スタジアム整備やアリーナの改修で音響や映像、飲食を楽しみながらスポーツを観戦できるようにしたい。</p> <p>また、スタジアムはサッカーだけではなく、ライブでの利用を前提に考えている。いまは施設の収容人数の問題がある。アリーナで5千人程度であり、ライブを誘致するためには、アーティストに合わせた会場規模が必要になる。1万5千人集められるアーティストは、5千人しか収容できない施設では開催しない。</p> <p>アリーナの収容人数を上回る会場として、スタジアムを活用し、ライブやスポーツの力を生かして、鹿児島市で若い皆さんにエンターテインメントを提供したい。</p>	市民局 観光交流局	<p>市長回答のとおり。</p>

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和5年7月13日（木）10：50～12：00
場所：鹿児島大学

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
7	鹿児島大学 学生	<p>スタジアムが整備された場合の白波スタジアムへの影響について</p> <p>スタジアムの話では、建設場所や白波スタジアム改修などの話が出ているが、新たなスタジアムを建設した場合、札幌ドームのように、白波スタジアムの稼働率が下がる可能性について見解を伺いたい。</p>	<p>札幌ドームと白波スタジアムは性格が違っており、札幌ドームはプロが使う施設のため、日本ハムが使わなければ稼働率が下がるが、白波スタジアムはサッカー、ラグビー、陸上関係者など利用を希望する団体は多い。</p> <p>いまはユナイテッドが試合をする時は、陸上などの団体が使えない状況になっている。スタジアムが整備されることで、そういった団体が白波スタジアムを利用しやすくするメリットがあり、使われなくなることはないと考えている。</p>	観光交流局	市長回答のとおり。
8	鹿児島大学 学生	<p>小中学校の統廃合及び廃校活用についての見解</p> <p>今後、小中学校の統廃合が増えるという話があり、先日の明和地区で住民から学校を統廃合して欲しいとの意見が出ているとのニュースを見た。</p> <p>今後、統廃合により廃校が増えた場合、施設を取り壊すべきか、活用すべきかといった議論は進んでいるのか教えていただきたい。</p>	<p>鹿児島市では、学校の規模適正化の目安というのを示しているが、学校のあり方は、地域のあり方に関わることから、まずは、地域の皆さんで話をして進めていくことが大切であると考えている。</p> <p>桜島の義務教育学校については、桜島を生かした特色ある教育を行い、「この学校に通いたい」「子供を通わせたいから、桜島に住もう」と思うぐらいの学校を作りたいと思っている。</p> <p>今後も、人口減少に伴い学校のあり方の議論が出てくると予想されるが、鹿児島市として単なる統合ではなく、学校を軸に、どういった人を呼び込んでいくのか考える必要があり、また地域でも語り合っていたきたいと思っている。</p> <p>明和地区のことについては、小中一貫校を求める地域の方々がいらっしゃるので、鹿児島市としては情報提供しながら、まずは地域で話し合ってくださいという状況である。</p> <p>校舎などの活用については、残りの耐用年数や保守費用、利用目的などを含めて、個別に判断していきたい。</p>	教育委員会	明和地区の小中一貫教育の導入については、学校運営協議会等で話し合いが進められ一定の方向性が示されたことから、教育委員会において今後検討してまいりたい。

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和5年7月13日（木）10：50～12：00
場所：鹿児島大学

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
9	鹿児島大学 学生	<p>選挙の投票率向上への取組について</p> <p>鹿児島市で投票率向上に関しての議論や取組みがあれば教えていただきたい。</p> <p>（追加質問）</p> <p>投票率向上の活動しており、お店に選挙割の協力依頼をするが、意識啓発が上手くいっていないように感じる。お店によっては、選挙割の集客に懐疑的であったり、割引との差額で利益にならないと考えてる方もおり、選挙割をもっと活用させられる案があれば教えていただきたい。</p>	<p>投票率の向上には、特に若い世代の投票率の向上が重要だと考えている。いま、若い人が投票しやすい環境について議論しており、大学にも投票所を開設しているが、投票所の場所や、意識啓発など更に検討していきたい。</p> <p>また、全国的に商店街で選挙割を実施しているところもあり、そういった民間のサービスが出てくることで、投票率の向上に繋がると考える。</p> <p>（追加質問に対して）</p> <p>民間の選挙割の積極的な活用については、戦略主体となる団体の発信力や、売り手の意識が重要だと考える。具体的には、「選挙割で新たなお客様を獲得した」「割引で利益につながらなくても、広報効果があった」と考える売り手の意識が重要であると思っている。</p>	選挙管理委員会事務局	<p>（選挙の投票率の向上への取組について） 市長回答のとおり。</p> <p>（選挙割の活用案について） 選挙割は企業等が主体となって自発的に取り組んでいるもので、投票所に足を運ぶ一つの契機になっている部分もあるかと思われるが、公職選挙法の趣旨から、選挙活動と営利活動は分けて行う必要があることから、選挙管理委員会が主導していくことは、特に考えていないところである。</p>